

# 競 技 注 意 事 項（ 駒 沢 ）

## 1. 競技規則について

本大会は 2025 年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項によって実施する。

## 2. 練習会場について

陸上競技場外の練習会場は、補助競技場とし、以下の日時で使用可能とする。ただし、スパイクシューズの使用や実際に砲丸・円盤を使用しての投てき練習は禁止する。時間については「表1」を参照。

表1(競技開始前練習時間と補助競技場の練習時間)

日にち	競技開始前練習時間	補助競技場
8月12日(駒沢1日目)	8時30分～10時00分	使用不可
8月13日(駒沢2日目)	8時00分～9時30分	8時00分16時00分
8月14日(最終日)	8時00分～9時00分	8時00分14時20分

## 3. 場内練習について

- (1) 競技開始前は「表1」の時間では競技場での練習を認めるが、必ず競技役員の指示に従い行うこと。
- (2) 競技中の場内練習については、バックストレート(男子100m・200m、女子100m・200m競技中)でのトラック練習を認める。その際、監督の同伴を原則とする。なお、監督は、場内練習(バックストレート)への入場の際には「監督証」(12日に大会本部にて配布)を携帯すること。出場選手以外の練習は認めない。また、競技中のスターティングブロックを使用した練習を認めない。
- (3) 混雑防止のため、次のレーン割り振りを守ること。競技役員からの指示がある時にはその競技役員の指示に従うこと。

短距離種目(男子 100m、200m、女子 100m、200m)レース中

- ・7・8レーン直線部分(1500m スタート付近～200m スタート付近):ハードル練習
- ・5・6レーン直線部分(1500m スタート付近～200m スタート付近):個人練習
- ・3・4レーン曲走路及び直線部分(第1コーナーの頂点付近～200m スタート付近):リレー練習
- ※1・2レーンは使用禁止

## 4. 招集について

- (1) 競技者招集場所は、A ゲート(100m 走スタート側)付近に設ける。
- (2) 各競技招集時刻は、競技日程表による。
- (3) 競技者は招集開始時刻までに招集所で待機し、競技者係から点呼を受ける。  
その際、ユニフォームにつけたアスリートビブスの確認を受けた後、誘導に従って競技場所に移動する。
- (4) 代理人による招集は原則認めない。  
ただし、2種目を同時時間帯に兼ねて出場する競技者は競技者本人が最初に行われる競技種目の招集時に「複数同時種目エントリーの申請書」(プログラム巻末)に記入し、競技者係に申し出ることにより、他方の出場種目の招集を免除する。
- (5) 招集完了時刻に遅れた場合、当該種目を棄権したものとして処理する。
- (6) アスリートビブスは、ユニフォームの胸・背に必ず付けること。「トラック競技に出場する競技者は右に腰ナンバー」もつけること。ただし、「3000m 以上のトラック種目に出場する競技者は、事務局が準備した胸・背のアスリートビブスおよび右に腰ナンバー」をつけること。なお、跳躍選手は、胸または背部に付けるだけでよい。

## 5. 競技について

- (1) トラック競技は、すべて写真判定装置を使用する。
- (2) トラック競技予選のレーン順、フィールド競技の試技順は、WEB のスタートリスト記載順による。
- (3) 準決勝、決勝の組み合わせ及びレーン順・試技順は、公正に抽選をし、その結果をダグアウト付近記録掲示板に掲示する。(TR20,21)
- (4) 不正スタートについては、一度の不正スタートでその責任を有する競技者は失格とする。(TR16.8)
- (5) 短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走ること。
- (6) リレーチームの編成(オーダー)は、招集完了(予選においては第1組目の招集完了時刻)の1時間前までに監督が署名し、競技者係主任に切り離さずに提出する。なお、提出後の変更は医務の許可がない限りは不可。リレーチームの編成については、TR24 によること。リレーオーダー用紙は、事前に監督会議資料としてデータで送っているものを各自で印刷し、使用する。
- (7) リレー競走においては、原則として出場都道府県毎に同一のユニフォームを着用する。(TR5.1) また、4×400mR の第3・第4走者のバトンの受け渡しは、コーナートップ通過順に審判員の指示に従って内側より並んで行うこと。その後バトンを受け取るまで待機順を入れ替わってはならない。コーナートップの地点は、200m スタート地点内側に設置された黄旗で示される。(TR24.21)

- (8) 男子走幅跳・男女砲丸投・男女円盤投の予選は、2回の試技を行う。跳躍競技の予選第1組はAピット、第2組がBピット、決勝はBピットを使用する。予選通過記録は、表2参照の通りとする。ただし、雨天、他の状況によって変更することがある。また、通過者12名に満たない場合、予選成績上位12番目までを出場させる(スタートリスト及びアナウンサーの発表を確認すること)。予選記録を突破した選手はラウンド終了を待たずに退場することができる。
- (9) 走幅跳・三段跳・砲丸投・円盤投の決勝は、前半2回の試技でTOP8を選出し、後半2回の試技を行う。
- (10) 走高跳の最初の高さは男子1m40、女子1m10とし、自分が試技を開始する高さを競技開始前に競技役員に申告してから試技を開始し、続けて2回失敗した時点で競技終了とする。自分が試技をしない高さについてはパスを申告することができる。走高跳のバーの上げ方は、表3の通りとする。男子1m65、女子1m25の後は競技者が最後の一人になり優勝が決まるまで3cm刻みで上げる。第1位を決めるバーの上げ下げは、2cmとする。
- (11) 競技中「助力」を受けてはならない。例えば、勝手に競技場所を離れること、ビデオ装置・レコーダー・ラジオ・CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似機器の競技場所の持ち込みは禁止する。(TR6.3.2)
- (12) 男子三段跳は、踏切から砂場までの距離を9mとする。

#### 6. 抗議について

- (1) 競技中に起きた競技者の行為または順位に関する抗議は、TR8に基づき結果の正式発表後30分以内(電光掲示板による公式発表を持って正式発表とする)に、また同一日に次のラウンドが行われる種目では、正式発表後15分以内に各都道府県監督から大会本部総務員を通して、審判長に口頭で申し出る。なお、監督以外からの抗議は一切受け付けない。
- (2) ジュリーへの上告は、審判長によってなされた決定の公式発表後30分以内に、競技者自身、もしくは代理人が署名した文書と預託金10,000円を添えなければならない。預託金は抗議が受け入れられなかった場合は没収される。

#### 7. 表彰について

各種目の決勝終了後、第3位まで表彰を行うので競技終了後ただちに1階中央廊下付近の表彰席に集合すること。

ただし、他種目に出場の場合は代理を認める。

第1位から第3位入賞者には賞状とメダルを授与する。第4位から第8位入賞者は賞状を大会本部で受け取ること。

#### 8. 更衣室について

- (1) スタンド下にある指定の場所を使用すること。使用区分は、男子が2B、女子が3A・3Bとする。
- (2) 更衣室は更衣のみの使用とし、室内ロッカーの使用は禁止。私物を一切放置せず、貴重品はすべて各自の責任で徹底管理すること。万が一、事故にあった場合でも責任は負わない。

#### 9. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用器具類は、すべて主催者が用意したものを使用しなければならない。
- (2) 跳躍競技で助走路に使用できるマーカーは主催者が用意したマーカーを1人につき2個まで置くことができる。個人の所有物は使用できない。
- (3) リレー競技に使用するマーカーは、主催者が用意したものを使用する。レース後は、前走者が責任を持って片づけること。

#### 10. 競技用靴について

- (1) 競技場は全天候舗装である。
- (2) スパイクのピンの数は、11本以内で長さ9mmを超えてはならない。また、走高跳は12mmを超えてはならない。これらのスパイクの直径は、先端が4mm以内でなければならない。(TR5.2)
- (3) 靴底の厚さについては、すべての種目において20mm以下とする。(TR5.2)

#### 11. その他

- (1) 競技場の中に商品名のついた衣類・バッグを持ち込む場合について  
日本陸上競技連盟「競技会における広告および展示物に関する規定」を適用する。
- (2) 競技中の疾病、怪我などの応急処置は主催者側の負担とする。その後の処置については責任を負わない。  
応急処置を要する場合、その他健康上の問題が起こったときは医務室に連絡すること。

表2(予選通過記録)

種目	走高跳	走幅跳	三段跳	砲丸投	円盤投
男子		5m80		10m00	28m00
女子				7m00	19m50

表3(走高跳)

	ラウンド	練習	1	2	3	4	5	6
男子	決勝	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65
女子	決勝	1m05	1m10	1m15	1m20	1m25	-	-